

平成27年度第3回林野庁入札等監視委員会 審議概要

開催日及び場所		平成27年12月10日(木曜日)林野庁AB会議室			
委員		前原一彦(公認会計士) 水上博喜(弁護士) 近田直裕(公認会計士、税理士)			
審議対象期間		平成27年7月1日～平成27年9月30日			
審議対象案件		63件	うち、1者応札案件 20件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 4件		
抽出案件		6件 (抽出率 10%)	うち、1者応札案件 2件 (抽出率 33%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件 (抽出率 - %)		
抽出案件内訳	工事	一般競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件	
		指名競争	公募型指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
			工事希望型競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
			その他の指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
		随意契約	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件	
	業務	一般競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件	
		指名競争	公募型競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
			簡易公募型競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
			その他の指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
		随意契約	公募型プロポーザル	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
			簡易公募型プロポーザル	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
			標準型プロポーザル	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
			その他の随意契約	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	物品・役務等	一般競争	4件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件	
		指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件	
		随意契約(企画競争・公募)	2件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件	
		随意契約(その他)	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件	
	(特記事項) ・抽出の6件については、契約額が大きい契約、落札率が低い契約等を抽出した。				
	委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問		
			回答等		
		(詳細に記述すること。)			
		(詳細に記述すること。)			
		(別紙のとおり)			
		(別紙のとおり)			
委員会による意見の具申又は勧告の内容		該当なし			
[これらに対し部局長が講じた措置]		□ □			

事務局: 林野庁林政部林政課会計経理第1班

(注)公益社団法人等とは、公益社団法人又は公益財団法人(一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第42条第1項に規定する特例社団法人又は特例財団法人を含む。)をいう。

	意見・質問	回 答
<p>委員からの意見 ・質問、それに対する回答等</p>	<p>抽出契約について 物品・役務関係 〔抽出番号1：平成27年度森林吸収源 インベントリ情報整備事業「森林経営」 対象森林率調査（現地調査）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年くらい続いている事業なのに、 落札した（株）アドプランツコーポレーションと、7位の（株）総合環境計画とは入札金額に8倍以上の価格の差がありますが理由は判るでしょうか。 ・あまり安価だと完成品の手抜きが気になるのですが如何でしょうか。 ・この事業者は近畿ブロックで初めて落札したのでしょうか。 ・（株）総合環境計画の入札価格ですが、このような高い価格になるにはどのようなことが考えられるでしょうか。 ・10倍近くの人数が現地へ行くということはあるのでしょうか。 ・環境計測（株）も高いと考えますが如何でしょう。 ・この事業は平成25年度から行っていますが、近畿ブロックは今回はじめて 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は判断しかねますが、事業計画書を見たところ、（株）アドプランツコーポレーションの人件費や旅費が予定価格よりもかなり低かったため、そこが影響しているのだと思われます。 ・品質管理については資料とりまとめ事業の受注者が検証を行い、結果を確認しておりますので、問題はないと考えています。 ・（株）アドプランツコーポレーションは、近畿ブロックは初めてです。他の地域は事業経験のある事業者が落札しております。 ・人件費だと思いますが、1箇所の現地に行く人数が多いことなどが考えられます。 ・予定価格はこれまでの実績から人工数等を算出していますが、それを考えると多すぎるように思います。 ・落札した（株）アドプランツコーポレーション、6位の環境計測（株）、7位の（株）総合環境計画は、今回初参加の事業者であることから、積算の感覚にずれが生じているのかもしれない。 ・各事業者に発注するのは3年目であり、近畿ブロックを（株）アドプ

<p>行うのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度はどこが受注していたのでしょうか。 ・毎年業者が変わっても、技術的には仕様書があるので、それほど問題はないのでしょうか。 ・現在実施期間中だと思いますが、いまのところ特に問題はありませんでしょうか。 ・前年度は（株）緑化技研が落札しているとのことですが、どのような入札結果でしたか。 ・それでは、入札価格が適正価格だったときに、今回の予定価格を上げた理由を教えてください。 ・来年度も今年度と同程度の予定価格となるのでしょうか。 	<p>ランツコーポレーションが受注するのは今回が初めてです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は（株）緑化技研です。 ・特に問題はないと考えています。 ・特に問題ありません。 ・昨年度の落札価格は今年度のものより若干高いです。 ・予定価格を積算する際には、これまでの実績報告等により必要人工数等を確認して積算しております。 ・調査箇所数にもよりますので、同程度とは限りません。
<p>〔抽出番号2：平成27年度国有林GIS数値基本図修正等業務〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札執行調書からすると、3回入札を行って、（株）サンコーは2回目から辞退したということでしょうか。 ・2事業者しか応募がなかったというのは、特殊な事業ということでしょうか。 ・この業務は地図の間違いを修正する作業というイメージでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そうなります。 ・国有林GISのデータの形式が一般的なGISの形式と異なるためかと思われます。しかしながら、入札説明会に参加した事業者や説明書を取得しに来た事業者は十数社でした。 ・間違いを修正するというものもありますが、森林計画を5年に1回作るのですが、そのときに施業の結果を反映させた図面も一緒に作るため、その更新作業が中心となります。

<ul style="list-style-type: none"> ・間違い誤りを修正するというより、変更点を修正するという感じですが、そういうソフトがあるのでしょうか。 ・コスト的には殆どが人件費でしょうか。 ・クボタシステム開発（株）はほかの2次業者へ委託に出すというわけではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修正専用のソフトというより、国有林GISのデータが扱えるような編集機能を持ったGISソフトにより行っています。 ・そうだと考えています。 ・今回は再委託はしていません。
<p>〔抽出番号3：民間企業の活動による二酸化炭素吸収・固定量の「見える化」実証事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定価格からすると落札金額は3分の1くらいですが、予定価格はどのように積算したのでしょうか。 ・ということは、（一財）林業経済研究所は人件費をかなり削ってきたということでしょうか。 ・技術点は低いのですが、OBは行っていないのでしょうか。 ・OBがいるのに技術点が低いのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従前の例にならって委員会や現地調査等にかかる人件費等の経費を見込んで積算しました。 ・そのように推測されます。 今回の事業の趣旨はCO2の「見える化」ということで極めて専門的なものですが、「見える化」についての制度は都道府県などで既に多くの制度があります。（一財）林業経済研究所は、そのような制度の分析の経験がある者がいるようで、その点で他の事業者より人件費を圧縮したかたちで入札されたと推測しております。 ・4名で、元林野庁国有林野部長、元森林総合研修所長、元東北森林管理局長、元中部森林管理局名古屋分局長です。 ・落札者以外の他の入札者を見ると、三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）と（株）三菱総合研究所は大手シンクタンクで、シンポジウムや実証事業をする際に民間企業への働きかけがしやすいと考えられ

	<ul style="list-style-type: none"> ・いまの説明は採点集計表ではどこにあたるのでしょうか。 ・必須は全て満点ですが何故でしょうか。 ・入札執行調書の価格点の計算方法ですが、価格点の配分は案件毎に決まっているのでしょうか。 	<p>ます。また、(一社)日本森林技術協会は、昨年実施の本事業の前身事業を共同で受注していました。このようなことから、民間企業との関わりの部分で、他の入札者よりも点が低くつけられたのではないかと考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「組織としての調査実施能力」や「関係業務の経験」、「調査内容に関する人的ネットワークを持っているか」などが挙げられますが、全般的な評価に関わってくるものと考えられます。 ・最低基準は満たしているという評価がされたと考えています。 ・技術点と価格点の配分は公告時に設定しており、他の類似事業と変わらない配分だと考えております。
	<p>〔抽出番号4：平成27年度「森林における除染等実証事業」のうち「避難指示解除準備区域等における実証事業(川内村)」〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回入札等監視委員会も同様な調査があったような気がしますが、同じでしょうか。 ・1者応札ということは、落札した事業者以外は出来ないということでしょうか。 ・この落札者はJVとなり、2者は役割分担が違うのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回札等監視委員会で抽出された事業は平成23年度から継続している事業であり、主にモニタリングを重点的に行っています。今回の実証事業は実際に皆伐をしたり植栽したり、林業を再開する上でどのようなことが課題であるかということを実証レベルで具体化することとしています。 ・前回も1者応札であり、前年度のアンケートを基に、公告期間の延長、理解しやすい仕様書としましたが、結果的に1者応札となりました。 ・(株)日本環境調査研究所は、放射性物質の調査等を担っており、各

	<ul style="list-style-type: none"> ・再委託先の磐城林業協同組合はどのような仕事をしているのでしょうか。 	<p>種測定に専門的な機器が必要になるため、このようなかたちが効率がよいと考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業現場の伐採等の現場作業を主に生業としており、専門的な作業であり、林業の経験と地域事情がわかっている林業組合にお願いしていると聞いています。 <p>また、被災地での雇用確保の観点からなるべく地元の事業体を使うよう指導しています。</p>
	<p>〔抽出番号5：平成27年度「森林における除染等実証事業」のうち「避難指示解除準備区域等における実証事業（田村市）」〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この契約は随意契約でしょうか。 ・OBが在籍している事業者ですが、最後はどのような役職だったのでしょうか。 ・その方がおられるからこの事業者にしたのでしょうか。 ・国土防災技術（株）に決めた理由がわかる資料は有りますでしょうか。 ・抽出番号4は競争入札でこちらは随意契約となっており、同様の内容と思えるのですが、違いを教えてください。 ・資料の「随意契約の理由及び経緯」 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画競争による随意契約となります。 ・元北海道森林管理局長です。 ・違います。 ・企画書審査報告で、技術点の配点をしており、関係者と課外の方で5名の方に審査をしていただいております。 ・今契約については、入札・契約手続審査委員会で、随意契約で実施することです承を頂いておりますが、抽出番号4については、その後に開催された入札・契約手続審査委員会でより透明性の高い総合評価で実施出来るのではないかという指摘から、総合評価落札方式としました。 ・昨年度は初回であったため、事業

<p>に、「仕様書等の具体的な提示が困難であり」とあるが、仕様書が提示できるかどうかというのが関係しているのでしょうか。</p> <p>・抽出番号4・5ともに1者応札ということだが、同様の事業なので、それぞれの事業者が双方の案件に入札して競争しても良いと思いますが如何でしょうか。</p>	<p>者、自治体等と打合せを行いながら実施しましたが、今年度は昨年度のフィールドを使用した追加調査の割合が多くなり、仕様書で明示できる項目が多いことから、より競争性の高い総合評価落札方式としました。</p> <p>・入札等の説明会には両事業者とも来ていますが、結果的に両案件とも1者応札となりました。どちらも昨年度からの継続事業であり、いずれも昨年と同じ事業者が落札していること、さらに、契約には自治体や地権者との合意形成といった内容も含む事業であることから、新規参入へのハードルが高いと判断されたと考えます。</p>
<p>〔抽出番号6：CLT等新たな製品・技術の開発・普及事業のうちCLT強度データ収集〕</p> <p>・家をつくるときの材料になるのでしょうか。</p> <p>・高層ビルの外壁にも使うのでしょうか。</p> <p>・コスト的にはコンクリートよりも安いのでしょうか。</p> <p>・CLTの強度の計測だと理解しているが、感覚的に契約金額が高いように感じており、需要費と役務費の金額が大きいのですが、どのような費用でしょうか。</p> <p>・実験にかかる人件費よりもそちらのほうにお金がかかるのでしょうか。</p> <p>・現在、CLTを使った5階建てのビルというのはあるのでしょうか。</p>	<p>・壁材、床材等になります。</p> <p>・一般の木造建築よりも少し高い建物に使用できます。</p> <p>・現時点では受注生産なのでコストは高いですが、普及すればコストは安くなると考えています。</p> <p>・需要費というのは、試験体を作るための材料費等です。役務費は試験体を工場から実験場への運搬費や、試験終了後の試験体の廃棄料等です。</p> <p>・材料については普及前ですので、若干お金が掛かります。</p> <p>・CLTを使用した5階建ての建物は実大実験の事例しかありませんが、3階建ての集合住宅の実績はあり、</p>

	<p>・旅費の270万円というのはどのようなのが計上されているのでしょうか。</p> <p>・役務の概要（実験手法の検討、実験の実施、報告書の作成等）を見ると、国立研究開発法人森林総合研究所しかできない事業のような気がしますが、難しいのでしょうか。</p> <p>・実験施設がある所や、学識経験者の方との繋がりを有している所でないと、なかなか難しいのでしょうか。</p> <p>・木材を活用して建物を建てると、環境や国にとってなにかプラスがあるのでしょうか。</p>	<p>人も住んでいます。</p> <p>・学識経験者の方等に集まってもらうときの旅費等となります。</p> <p>・大学や県の試験場に再委託を実施しており、試験装置があるところではなければ実験できませんので、ある程度は限られると考えています。</p> <p>・知見をもっている方でないと判断が難しいと考えられます。</p> <p>・木材使用量が増えることで、山林の利用可能な木材を有効活用でき、地域の活性化につながります。また、木材を使用することで山の手入れも進み、森林の多面的機能の発揮につながる事となります。</p>
	<p>その他</p> <p>・委員会としての意見はなし。</p>	